

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

学校は何のためにあるの？ ～ 今こそ同僚性の発揮と力の結集を ～

指導課長 堀之内 尚史

明治以降、社会の変化や流れの中で、その時々時代の時代に応じた教育改革が行われてきました。今回の「2020年教育改革」は、AI化やグローバル化など、著しい変化が伴う社会で生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指して、「新学習指導要領の導入」、「大学入試改革」、「英語教育改革」の3つの柱で進められています。

近年、“予測困難な社会(時代)”という言葉がよく使われますが、2020年1月からのコロナ禍、異常気象、ロシアによるウクライナ侵攻、物価の高騰、安倍元首相の銃撃事件等、予測困難な事態が学校生活や家庭・社会生活に大きな影響を及ぼしています。コロナ禍による休校等で「学びを止めない」ために、GIGAスクール構想が前倒しされ、一人一台端末が急激に整備されました。物的な環境は予算があれば整備することができますが、教育改革を支える教員の力量や資質・能力は一朝一夕に形成されるものではありません。

コロナ禍で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としています。“ICTの活用”と“少人数によるきめ細かな指導体制の整備”により、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指しています。

学校は、百年に一度のパンデミック(コロナ禍)の中、大きな転換期を迎えています。私たちは、これまでの教師主導や知識伝達型の授業から脱却し、子供主体(子供が主役)の課題解決型の授業へ転換しなければなりません。“学力の二極化”よりも、それを生み出す“学習意欲や授業参加の二極化”に傾注し、できる子・分かっている子を中心とした一問一答の授業をやめて、一人ひとりの子供が自らの問いに向かって学び進められるよう、今こそ同僚性を発揮し、それぞれの強みやよさを活かし、自ら学ぶ・互いに学ぶ教員集団をつくっていきましょう。



児童生徒の健康・安全について

○ 新型コロナウイルス感染症対応と熱中症

人との距離(2mが目安)が確保できる場合や会話がほとんどない場合、マスクを着用する必要はなく、熱中症防止の観点からマスクを外すことが推奨されています。通知文や文部科学省・厚生労働省のHP等で確認しましょう。



○ 交通安全

歩行中や道路横断中、自転車乗車中の事故が多い傾向にあります。小中学生は、自転車に乗るとき、ヘルメット着用が義務付けられています。

○ 水難事故防止

毎年、海や川、プールでの水の事故の報告があります。遊泳禁止場所で遊ばないことやプールや施設のルールを守ることなど、安全について具体的に共通理解をしましょう。



【海上保安庁ウォーターセーフティーガイドQRコード】↑

コアスクールプロジェクト第1回校内研修会

6月28日(火)、薩摩川内市立川内南中学校でコアスクールプロジェクト第1回校内研修会を実施しました。このプロジェクトは、授業づくりに効果的な校内研修や学力向上に向けた組織的な取組を、教科の枠を超えて教師一人ひとりが学び合い、子供たちの視点から議論し、授業力の向上及び児童生徒の学力の向上に資することをねらいとしています。

今年度は、コアスクールを川内南中学校、エリア推進スクールを、阿久根中学校、川内中央中学校が取り組んでいます。今回は、2年生の数学の授業を基に全職員で「生徒の姿を見取る」という視点で活発に話し合い、授業改善に向けた取組を深めることができました。また、鹿児島大学廣瀬准教授から具体的な指導助言をいただき、有意義な研修会になりました。

臨時的任用教員を募集しています！

知り合いの方で教員免許状を持っておられる方に、応募の声掛けをお願いします。

少しでも関心があれば、管理課までお気軽に御連絡ください。詳細は北薩教育事務所のホームページをご覧ください。



北薩地区道徳教育研修会

6月24日(金)、さつま町立盈進小学校、宮之城中学校で開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小し、小学校部会52人、中学校部会45人の参加でした。



盈進小学校は、学びの過程を振り返る「盈進ノート」の活用や多様な交流活動により、児童は主体的に取り組んでいました。宮之城中学校は、タブレットPCを活用した話し合いや対話により、活発に意見を交わし、考えを深めていました。両校とも、児童生徒が主体的に意見を交わし、自己を見つめることで道徳的価値を深めていました。また、学校が一体となり「考え、議論する道徳」に向けての授業改善に取り組んでいました。



「整備」から「活用」へ

～GIGAスクール構想の実現～

令和3年度7月末の県の調査において、授業での端末の利活用を「ほぼ毎日」と答えた学校の割合は、小学校で70.6%、中学校で54.2%でした。教育の情報化は、令和3年度の「整備」から、令和4年度の「活用」へと大きな転換期です。常に、子供が楽しい授業、分かる授業は何かを考えて、一人一台端末を積極的に活用しましょう。

合同計画訪問

今年度は、小学校17校、中学校5校を予定しています。1学期の訪問校では、児童生徒の元気な挨拶、きれいに整った靴箱や鞆棚、学校の特色や取組が分かる掲示物等、学校の取組の様子がよく分かりました。



授業では、児童生徒や先生方がICT機器を積極的に活用していました。児童生徒が主役となる学びを実現するために、更に自力解決の時間の確保や対話による思考の活性化等、授業改善に取り組



みましょう。また、学習の基盤となる学習環境やルールを整え、心身共に成長できる環境づくりに努めましょう。

心身のリフレッシュを！

児童生徒の夏休み期間については、教職員も休暇を取得しやすくなります。研修や教材研究、部活動指導等の業務はありますが、新学期に備えて、十分な休養と英気の涵養に努め、充実した教育活動を展開してほしいものです。

なお、本県教育委員会では、毎年8月11日から8月17日までを、学校行事等を実施しない「リフレッシュウィーク」と設定しています。

特別支援学級に在籍する

児童生徒の交流及び共同学習の時数

～事例に該当していませんか～

R4.4.27文科省通知「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」において、改善が必要な具体的な事例が挙げられています。

- 特別支援学級に在籍する児童生徒について、個々の児童生徒の状況を踏まえ、特別支援学級では自立活動に加えて算数・数学や国語といった教科のみを学び、それ以外は交流及び共同学習として通常の学級で学ぶといった、機械的かつ画一的な教育課程を編成している。
- 全体的な知的発達に遅れがあるはずの知的障害の特別支援学級に在籍する児童生徒に対し、多くの教科について交流及び共同学習中心の授業が行われている。
- 交流及び共同学習において、「交流」の側面だけに重点が置かれ、特別支援学級に在籍する児童生徒の個別の指導計画に基づく指導目標の達成が十分ではない。
- 交流及び共同学習において、通常の学級の担任のみに指導が委ねられ、必要な体制が整えられていないことにより、通常の学級及び特別支援学級の児童生徒双方にとって十分な学びが得られていない。

児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた授業が行われているか、学びの場等を再確認しましょう。

北薩の文化財

令和4年4月26日付で、北薩地区で新たに3件の文化財が県の指定を受けました。

- 有形文化財(建造物)阿久根市脇本 西徳寺山門(鐘楼付)
- 有形文化財(考古資料)出水市(個人蔵) 出水貝塚出土品 附 書簡 (書簡が新たに追加指定)
- 有形文化財(絵画)出水市 [出水歴史民俗資料館] 三十六歌仙絵扁額



文化財の特徴については、鹿児島県教育委員会ホームページに掲載されています。